

コシヒカリの穂肥施用

■ 1回目穂肥は的確に、2回目は確実に ■

1. 中干しの継続 □ 幼穂形成期直前まで □

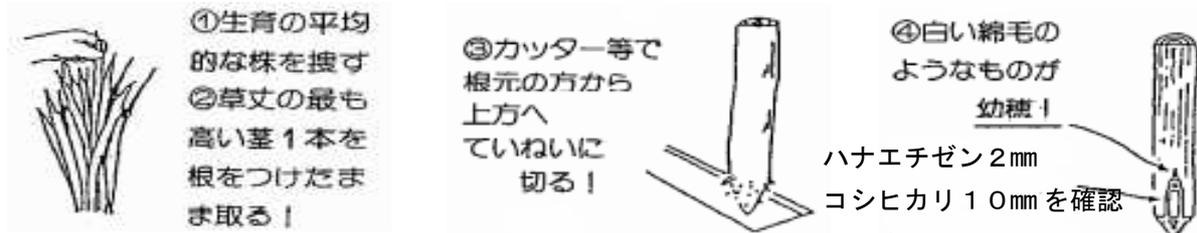
コシヒカリは中干し継続

幼穂形成期（ハナエチゼン6月27日頃、コシヒカリ7月17日頃、あきさかり7月21日頃）までの中干しで稲体の健全化を図り、収穫直前までの間断通水を可能とすることが、品質向上（乳白や胴割粒の発生を抑制）につながります。

又、中干しは無効分げつを抑制し、下方向への根の伸張を促進するため必要な作業であることを再認識して、適期に実施してください。



2. コシヒカリの穂肥 □ 幼穂長と生育を確認して適切な穂肥を □ 幼穂長の調べ方



穂肥は適正な着粒数と登熟向上に向け、必ず幼穂長と圃場ごとの生育（草丈・葉色・莖数）を確認し適期に適量を施すことが極めて大切です。

施用時期が早いと、1つの穂につく粒数が増加しますが、稈が伸び、止葉が長く、倒伏しやすくなり、結果として登熟が悪くなります。逆に、遅いと、穂につく粒数に不足をきたし、精米中の蛋白含有量が高くなり、食味を低下させる原因となりますので、1回目の穂肥は時期を的確に施しましょう。

近年温暖化している気候の中、8月上旬中旬の出穂期に葉色が非常に淡くなっている（夏場の稲体の活力が低下している）ことも胴割れ米の発生要因と考えられるため、暑い夏場を乗り切るために2回目の穂肥は確実に実施しましょう

3. 穂肥時期・量の目安 □ ほごえ彩ゆうき施用量 □

品 種	1 回 目		2 回 目	
	時 期	10 [㎡] 施用量	時 期	10 [㎡] 施用量
ハナエチゼン	幼穂長 1~2 mm (6月27日頃)	適正 15 kg	1回目の10日後 (7月7日頃)	適正 15 kg
		やや過剰 13 kg		やや過剰 13 kg
<u>コシヒカリ</u>	<u>幼穂長 10 mm</u> (7月22日頃)	適正 13~15 kg	<u>1回目の7日後</u> (7月29日頃)	適正 13~15 kg
		やや過剰 10 kg		やや過剰 10 kg
		過剰 -		過剰 10 kg
あきさかり	幼穂長 1~2 mm (7月21日頃)	適正 13~15 kg	1回目の10日後 (8月1日頃)	適正 13~15 kg
		やや過剰 10 kg		やや過剰 10 kg

穂肥えの施用は幼穂長を確認してからの的確に行いましょう！

コシヒカリは七月中旬まで中干しを継続しましょう！

4. コシヒカリの稲の姿（幼穂形成期時） □ 穂肥を決めるポイント □

生育	草丈	葉色	茎数
適正	82 cm未満	3.5	24本/株程度
やや過剰	82 cm以上	やや濃い	25～27本/株
過剰	82 cm以上	濃い	28本/株以上



5. 基肥一発肥料の対応 □ 間断通水で肥効の発現を □



原則、穂肥の必要はありませんが、幼穂形成期（幼穂長 1～2mm）を確認したら、その後は間断通水として、穂肥効果の発現を促しましょう。

一発肥料でも前年が転作などの理由で基肥を減らしている場合は、穂肥窒素量が不足するので、不足分に換算した穂肥を施すようにしてください。又、2回目の穂肥時期となっても葉色が淡いまま登熟不良を招くと予測される場合、ほごえ彩ゆうきを7kg/1.0a程度、2回目の穂肥に相当する時期に追肥しましょう。

6. 倒伏防止 □ 今年の稲は倒さない □

コシヒカリの乳白米が多い理由として、登熟前半（8月上旬～中旬）頃にイネが倒伏し、品質が低下していることも上げられます。倒伏すれば、食味も悪くなるのだから、その危険性が高い場合は、倒伏軽減剤を必ず散布しましょう。

稲体が軟弱で葉が垂れ葉色が濃いなど稲の姿が悪い場合、倒伏する可能性は高くなります。

田植え・播種	出穂予測	倒伏軽減剤 散布時期	
		スマレクト粒剤 (出穂15日～10日前)	ビビフル粉剤 (出穂10日～5日前)
5月20日移植 5月上旬 直播	8月10日頃	7月25日～31日 【幼穂長 50 mm】	7月31日～8月5日 【幼穂長 100 mm】



7. 間断通水 □ 夏場を乗り切る水管理 □

5月20日に移植したコシヒカリでは、7月中旬頃から幼穂形成期（幼穂長 1～2mm）に入るものと思われます。玄米の品質向上を図るためには、中干しが終わる幼穂形成期から成熟期（収穫直前）まで土壌水分を維持することが重要です。又、出穂期の15日前頃～出穂期～登熟初中期は稲が最も水を必要とする時期です。

根の活性化のために、通水と通気を図って根へ酸素を供給するようにしましょう。

水管理のイメージ

7月			8月			9月	
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟初期	登熟中期	登熟後期	成熟期



幼穂形成期以降は水管理に注意し、間断通水を行いましょー！